



動きだ
あ
51才

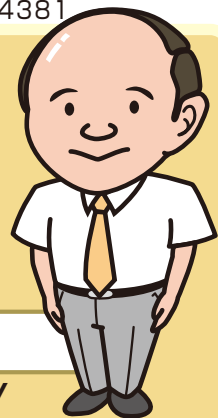
日野市議会議員

西野まさひと

活動報告 NO.26

ハッキリ言います! 市政にひとこと!

【ホームページもみてね!】<http://www.nishino1.com/>



■ 西野まさひと友の会では平成23年日野市12月議会における西野まさひと議員の一般質問の内容を中心に報告致します!



特集

3P

日野市の生活保護施策

～社会保障と家族の絆～

まちづくり

2P

3・4・8号線開通に
伴うまちづくり



多摩平の森
イオンモール
平成26年2月竣工

豊田駅北口にショッピングモール
多摩平の森
イオンモールに決定!

3月末
いよいよ
オープン

市民の森
ふれあいホール



活気・活力のある日野市へ!

平成23年第4回市議会定例会(12月議会)が11月30日より12月16日までの17日間行なわれました。本議会では一般会計補正予算にて、私をはじめ自民クラブが長年取り組んできました「日野駅前大坂上通りの歩道拡幅事業」に、JRからの土地買収費用4968万円(詳細は4頁参照)も予算化され、歩道拡幅に向けて大きく前進しました。また、3月11日にオープン予定の市民の森ふれあいホール開設経費127万円、市長に申し入れを行い区画整理事業費とは別予算にて実現した仲田公園整備工事費(第1期)2583万円、そして生活保護経費6億8360万円などが補正予算として承認されました。

今回の一般質問の内容については2・3頁に詳細を記載しておりますが、①「バブル崩壊以来増え続ける生活保護について、日野市の現状について」②「都市計画道路3・4・8号線開通における地域の要望などについて」質問をさせて頂きました。

日野市にとっても明るいニュースもあります。豊田駅の北側区画(現京王ストア区画)に多摩平の森としてイオンモールが建設されることとなりました(平成26年2月竣工予定)。これまで日野になかった大型商業施設の誕生で、日野市の商業界の活性化が期待されます。

さて、議会改革特別委員会において議会改革を進めるべき議論が交わされています。その中で現在、陳情と請願の取り扱いについて議論がなされています。最終的には前回の選挙においてもなされた議員定数削減(定数26から定数24)や議員報酬についても議論がなされるものと考えています。また、議員全員が参加している日野市議会が対策議員連盟においては施設の見学、各団体との勉強会及び意見交換会が活発に行われ提言書作成に向けて現在作業が進められています。

昨年は東日本大震災におけるボランティア活動に極力参加するように努め、それに伴い駅頭での活動を自粛しておりましたが、本年からは、駅頭などでの活動を精力的に行って参りたいと思います。

日野市議会議員 西野正人

質問 13-2

3・4・8号線開通に向けてのまちづくりの状況について

地域の要望と安全対策について

来年3月末に都市計画道路3・4・8号線が開通する予定です。開通後は交通量の増加が予想されますが、近隣からのどのような要望があり、対処する予定かたずねたところ、信号機設置の要望が多数寄せられておりました。

現時点での設置予定箇所と、設置要望の場所をご報告いたしますと、下図のようになっています。



日野警察署管内では、日野市・日野警察署・交通安全協会をはじめ多くのボランティア団体により左に示すような、交通事故防止の取り組みを行なっています。

● 見せる交通街頭活動(安全協会による制服を着用しての交通補助運動)

● 日野警察署によるレッドフラッシュ作戦

● 高齢者に対する交通安全教育の推進

● 市内中学校へのスクエアードストリート方式の交通安全教育
3・4・8号線開通により交通量の増加が予想されますので、関連団体が協力して、万全な体制で安全対策にのぞまなくてはなりません。

質問 13-2

3・4・8号線開通に向けてのまちづくりの状況について

市内循環バス路線について



これまでも幾度か質問を続けていますが、市内循環バス運行に向けてのその後の経過と状況についてたずねました。

答弁(都市計画部長)

● 市では、日野駅北部に路線を持っている京王電鉄バス・西東京バスに対し、平成23年5月に路線開通に伴う路線の開設の検討を依頼している。

● 路線の検討にあたって、東町・万願荘周辺地域のバス交通の利便を求める請願や要望、ふれあいホールへのアクセスも考慮することを求めている。

● 現在、各事業者によって、道路開通による交通状況の変化、沿線宅地化の見通し、大規模施設の立地の可能性、多摩都市モノレールとの競合、地域住民のニーズなど様々な面で事業性、採算性、社会性の検討を行っている。

● 今後は、年内を目途に事業者から検討結果の報告を受け、その後、請願、要望をいただいている地域に対して内容をお知らせし、開設後の積極的な利用をお願いしていく。

質問 13-2

3・4・8号線開通に向けてのまちづくりの状況について

四谷下東公園管理棟の建設について

四谷下東公園管理棟建設にむけて、施設の特徴と、今後の管理方法について質問しました。

下図は、答弁を頂いた現時点での四谷下東公園管理棟の平面図です。



答弁(環境共生部長)

● 日野本町5丁目の四谷下東公園内に建設する管理棟は、「水と緑の体験施設」として、地域にある水と緑などの自然資源を活用した自然体験の場として、また、地域住民のコミュニティーの拠点として建設する。

● 施設の特徴は、公園と一体利用することができるよう縁側を設置し、三代目が交流できる空間をつくり、併せて屋外からも利用可能な多目的トイレを設置する。

また、高齢者や子育て世代への配慮として、施設のバリアフリー化を図り、安心して利用できる設計とする。

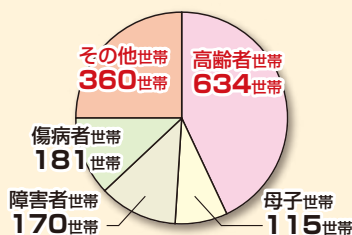
● 施設の管理方法は、市内の地区センターに準じ、近隣地域の自治会のご協力を頂き、受付、鍵の管理、清掃等の管理運営を行なう予定である。

生活保護受給者の急増！自立への取り組みの強化を！

高齢者世帯
その他世帯
が急増！

答弁（健康福祉部長）

近年の生活保護受給者の構成は「高齢者世帯」と「その他の世帯」が急増している。「その他の世帯」とは、働くことが出来、自立を目指す世帯である。



●生活保護受給者の構成変化について

平成23年度
市負担は
37.5億円

答弁（健康福祉部長）

平成13年(4月)	850世帯
平成20年(4月)	1120世帯
平成21年(4月)	1195世帯
平成22年(4月)	1314世帯
平成23年(10月)	1460世帯

平成13年から20年まではなだらかな推移であったが、リーマンショック以降急激に増加しており、支給の1/4を負担している日野市の負担額は37億5千万円となる。

●生活保護受給者の推移について

全国の生活保護受給者数は平成7年では88万人、平成11年には100万人を突破、本年7月には205万人に達し、生活保護費支給額は3兆4千億円となりました。この状況は国はもちろんだ方自治体にも膨大な財政負担をしいています。そこで、日野市の生活保護政策について以下の項目について質問いたしました。

質問
13-1

生活保護支給政策について

日野市における生活保護施策状況について

市長 答 弁

●西野議員のご指摘の通り、生活保護を含め、医療や介護、障害を持つ方々の自立など、支えることが必要な方々への制度の考え方や仕組みを作り直さなければならぬ時期を迎えているのではないかと思います。生活保護の法的根拠は憲法25条の生存権であります。同時に憲法では勤労・納税・教育の義務も果たされています。生活保護もそうですが支えるためには、納税している人がいるわけですから、モラルハザードが起きないようにしっかりと教育してゆく必要があります。

先送り
しない責任



平成22年度
18人が
自立！

答弁（健康福祉部長）

●外国人の受給者は39名である。
●不正受給に関しては、市民税課と協力し課税調査を行っている。昨年実績では、就労収入未申告が12件、年金収入未申告が7件あった。
●平成16年度から生活保護受給者への自立の取り組みとして、ハローワークOBによる就労支援プログラムを行っており、平成21年度は就職者67人、8人が自立、平成22年度は就職者77人、内18人が自立している。

- 外国人の受給について
- 不正受給の状況と取り締まりについて
- 自立への取り組みとその成果について
- 教育について

家族の支え合いを助ける政策を

民主党が廃止した配偶者控除は、かつて大平内閣が核家族化が進む日本の将来を案じ、家族崩壊の歯止めをかけようとした政策です。子ども手当にみられるように、民主党の政策は、家族の絆を弱め、行き過ぎた個人の権利ばかりを主張する危ない政策と言わざるをえません。子が親の面倒をみるのが当たり前ではなく、質問しましたが、残念ながら教育長からは、まともな答弁は頂けません。国のあり方を見据え、どのような政策を選択するのかを見極める重要な時を迎えています。

今回の東日本大震災で、多くの日本人があらためて家族の大切さ、地域の人々との絆の大切さやありがたさを感じたのではないのでしょうか。「親の面倒を子供が診るのは当たり前」、家族で支え合い、力を合わせてくらすことに日本人の幸せの根本があるのではないのでしょうか。

「家族の絆」が大切！
社会保障論議はまず幸せの価値観から

社会補償費の急増は、もはや局所的な対応では解決できないところまで来ています。国に多くの社会保障を求めるならば、消費税を欧州並みに上げなくてはなりません。

しかし、日本人にとって、幸せの価値観が欧米のライフスタイルに本当にあっていると言えるのでしょうか。欧米人は成人すると独立し、両親とは同居せず、クリスマスにだけ両親のもとで過ごし、老後は養老院でくらす。こういう生活を日本人は本当に望んでいるのでしょうか。



「旧浅川公会堂用地」は売却せず新たな活用！

万願寺6-31 旧浅川公会堂用地

1) 活用方針

● 新たな公共施設は作らない

周辺環境がすでに整備済み。20号バイパスの開通で市民会館へのアクセスが向上。

● 売却はしない

将来のために用地確保が必要。

● 民間業者に貸し付ける

財源不足を補うため、安定的な財源を確保。

2) 事業の方針

● 財源の確保

事業者から定期借地料を徴収。契約時の保証金にて運用を行なう。

● 地域の活性化と利便性の向上

地元要望のある事業者を選定。地域の活性化と雇用の確保。既存の事業者に配慮。

● 地域の安全・安心の確保

道路の渋滞や違法駐車等、地域に影響を及ぼさない事業。地域の風紀を乱さない事業者。

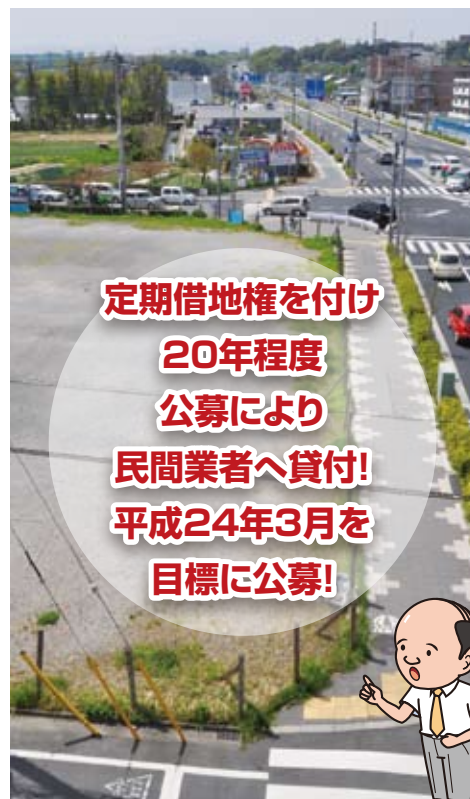
● 市の事業用地の確保と既存利用者への配慮

駐車場の一部を農産物直売所や万願寺グラウンドの利用者が利用できるよう調整する。

平成21年3月議会においても質問させて頂きましたが、20号バイパス沿いに位置する「旧浅川公会堂用地」の活用について大きな進展がありましたので、ご報告いたします。

前回質問した当時、この土地を売却する計画が示されていた。この土地は区画整理事業のなかで地権者の協力により生み出された浅川公会堂の予定地です。その土地を当時の地権者の方々に何の説明も無く売却するのはおかしいとの声が多く寄せられ、市の対応をただすために質問いたしました。

今回、「大規模市有地の活用について」として、当該地を含む市有地の活用方針が示されましたので、ご報告いたします。



定期借地権を付け
20年程度
公募により
民間業者へ貸付!
平成24年3月を
目標に公募!



日野駅前大坂上通り歩道拡幅が いよいよ予算化!

平成22年度からJRとの協議をかさね、さらに東京都との財源調整を行なってきました。昨年の12月議会にて、歩道東側の日野駅舎のり面部分を歩道の拡幅用地として、JRから取得するため、一般会計の補正で予算化することができました。用地取得費用は4968万円です。

これにより、歩道拡幅実現がいよいよ具体的に進展することとなりました。

1) 整備概要

JR上り線盛土法尻の一部(276㎡)を用地取得し、大坂上通り東側歩道(起点～日野駅西駐輪場の延長115m)の歩道幅員を現況1.25mから3.0mに拡幅整備する。

2) スケジュール

平成23年度

地質調査、用地測量、実施設計、歩道拡幅用地購入

● 地質調査業務委託210万円(当初予算)

● 用地測量業務160万円(当初予算)

● 道路実施設計業務72.8万円(当初予算)

● 歩道拡幅用地購入4,968万円(12月補正予算)

平成24年度(予定)

歩道拡幅工事(工事委託料を当初予算で要求中)

西野議員長年の取り組みが いよいよ具体化!

平成19年にJRに陳情に伺って以来、継続的に取り組み、一般質問でも何度か取り上げさせて頂きました。「日野駅前大坂上通り歩道拡幅整備事業」に進展がありましたのでご報告いたします。



長年の取り組み
ついに予算化!

